



発行日 2011年8月18日 発行人 細川正善

編集責任者 廣澤道秀 編集担当 亀野元彰

発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内

Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>

郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.47



国際布教関係物故者法要 大本山總持寺講演会にて

巻頭

“インターナショナル”とは何か？

曹洞宗ヨーロッパ国際布教総監 フォルザーニ^{じそう}慈相

2011年3月11日、未曾有の大きな地震と津波が東日本一帯を広く襲いました。まずは心よりお見舞い申し上げます。

私は2009年11月にヨーロッパ国際布教総監として就任いたしました。当初は総監部での役割を通じて、世界における曹洞禅の状況を紹介することを考えていましたが、今般はこの大災害から想起させられる、“インターナショナル”という言葉の持つ意味について述べようと思います。

この度日本で起こった大災害は、その土地と国、そして人々のみならず、同時に人類全体にとって痛ましい出来事と感じます。この事は、私たちに“インターナショナル”という言葉の持つ意味をより深く省みることを余儀なくさせます。少ない天然資源にも拘わらず、日本は戦後わずか数十年で、経済的、技術的に最も高いレベルに達し、世界的に見ても最先端の国の一つとなりました。この点において、この震災が多くの人々の生命と沢山の建築物を奪い去ったことは、世界中が競うように目指してきた、経済力と技術力に基づく発展のモデルに対する危機を象徴しているようにも思えるのです。

特に重大な出来事であるのは、世界には何百という数が存在している一カ所の原子力発電所の、一つの原子炉が、その発電所周辺だけでなく、その他の地域、地球の反対側に住んで

いる人々にも多大な影響を及ぼすということです。

“インターナショナル”とは、境目のない空の空間であり、融通無礙で、聖も俗も分け隔てがない「廓然無聖」の状態であるとも言えます。このことは同時に、自分のことや自分の周りのことばかりを考えてはいられないことを意味します。なぜならばその人の一時的な幸せが、世界的に大きな災いをもたらすこともあるからです。

この事は曹洞宗も含んだ宗教的な問題と言えます。なぜならば禅とは宗教的な生き方であり、伝統や教義、規範体系以前の宗教的な日常の在り方であるからです。私は曹洞宗の持つ国際的な側面とは、日本の曹洞宗の伝統をそのまま日本以外の国へと移植することが主ではないように思いますし、この複雑でグローバル化され、混乱した現代社会のなかで、曹洞禅の役割とその意義をどこに見出すことができるのかが大きな課題だと考えます。

私の考える“インターナショナル”とはまた、共に考え、反省すべきことを共有し、共にこの役割と意味を探究することを意味します。現実には、時として想定外の事が起こり、際限ない姿を見せるものです。それゆえ先見の力が足りずに、この世界を形作る様々な可能性を見通すことができないかもしれません。しかし、まず私たちは自分自身の直接的な経験を足がかりとし、そしてその経験を共有していくのです。それこそが正に“インターナショナル”の意味するところであると思います。

東日本大震災メッセージ

「東日本大震災」による被災地の苦悩

—地震・津波・福島原発放射能汚染—

S Z I 会長 ^{ほそ かわ しょう ぜん} 細川正善 (福島県天徳寺住職)

この度の東日本大震災で、被災された多くの方々にお見舞い申し上げますと共に、亡くなられた方々に対し衷心より哀悼の意を表します。

これまで、SOTO禅インターナショナルでは震災直後、曹洞宗宗務庁に災害支援金100万円を寄託し、各スタッフを通じボランティア活動を支援して参りました。

私どもは、今後とも被災地復旧・復興支援の為、惜しみない協力をしてまいります。

さて、7月25日現在、大震災で死亡が確認された人は1万5,600人を超え、行方不明者は4,800人にのぼっています。また、建物の被害は、全壊が11万戸あまり、半壊が13万2,000戸、一部損壊の建物はおよそ47万5,000戸にのぼっています(TBS Newsより転載)。被災者の方々は避難・転居者11万2,405人と発表されています。

更に、東北3県の宗門寺院関係被害状況(曹洞宗福島県宗務所吉岡棟憲所長報告H23.7.23)を見ますと宮城県(全損32・半損17・一部損336)、岩手県(全損7・半損0・一部損80)、福島県(全損6、半損31、一部損121)との報告がありました。

私の住持する猪苗代地区は、地域により被害の違いはあったものの、地震による死傷者もなく、拙寺も無事でしたが、当町には何よりも原発による避難命令で、現在も3千人以上の方々が不自由・不安な避難生活を余儀なくされています。

当初、私は「町民体育館」や「国立青年の家」に避難していた方々に対し、物資の支援や知人の慰問コンサートの手配・手伝いをしながら、スタッフと共に支援活動や被災地の慰問をしてきました。

また、震災から一ヶ月たった頃、宮城県松島から南三陸にかけS Z I会員の方々へのお見舞い慰問を兼ね被害状況の調査に行ってきました。

被災地の海岸線に近づくにつれ、状況は一変。あるべき道路、橋、家屋が何一つなく瓦礫の山。想像を絶する光景が目に入ってきました。それも山間の奥まで車や小型船が打ち上げられ、見渡す限り無残な姿に変わった光景でした。特に南三陸町の被災状況は凄まじく、自然の猛威を改めて見せつけられました。

そして、その町内にあり、現北米サンフランシスコ桑港寺国際布教師である館寺規弘師の師寮寺「津龍院」様を

慰問したときには、海岸より数キロ離れた高台にあるにもかかわらず、寺は地震と共に津波で押し流されてきた家屋や車で、山門から本堂伽藍が全壊していました。丁度、館寺師が震災直後師寮寺復旧作業の為に一時帰国し、瓦礫の撤去と仮本堂の建設に汗し、同じく被災した方々の世話をしていました(現在は客殿兼仮本堂が百ヵ日慰霊法要にあわせ落慶したと報告があった)。更に、途中目にした自衛隊隊員とボランティアの方々が、懸命に行方不明者の搜索と瓦礫の撤去作業をしている姿に、心から敬意を表さずにおられませんでした。

震災直後、多くの報道機関と世界各国の人々は、日本人は秩序を守り、忍耐強く、黙々と困難に立ち向かっていると称賛していました。しかし、それは自然に対する敬意と、天災に対する畏怖の念が、仕方がないながらも、まだ、復興に向けた希望が持てるからだと思います。

私は、この大震災で一番強く感じていることは、当県は震災被災地でもありながら、人災に等しい今回の原発事故によって大量の放射能に汚染され、健康被害はもとより、政府、東京電力による情報の隠蔽・対応の遅れが混乱を招き、県内の農水林畜産、工業、観光産業と、ありとあらゆる経済活動、日常生活機能が停止状態となったこと。

また、県産の商品は、放射能汚染されているといわれ(実際に一部基準値を超え出荷停止になっているものもある)、言われ無き風評被害が起り、更に、被災地の三重・四重の苦しみに加え、福島県(被曝地)と言っただけで差別を受ける状況に、支援・同情から差別を受ける側となっていること。

原発の収束が遅々として進まず、県民全体が未だ復旧復興の見通しが立たない困難な状況下であり、避難してきた住民の中には、「二度と戻れない」「今までの生活を返してくれ」と訴え、避難地域以外でも、子供の健康を考え転居している方がいること。

こうした現状を見るにつけ、原子力の放射能汚染は一瞬にして全ての社会・日常生活・生産活動を奪い、我々の将来も変えてしまう本当に恐ろしい産物であり、今後の原子力開発推進のあり方や、原子力エネルギーに依存する生活を真剣に考えなくてはならないと痛感する次第です。

そして、私たちは日が経つにつれ、多少落ち着きを取



仮本堂復旧工事現場前で津龍院様（南三陸町）と舘寺規弘さん（桑港寺国際布教師）

り戻してくると「対岸の火事」「のど元過ぎれば」の如く（政府、報道関係…等を含め）心配同情はしていても、自分の所でなくてよかったと、支援者側と被災地との温度差は大きく、更なる隔たりを見せております。

こうした過酷な状況に対し、当事者なのだから頑張れ・堪え忍べでは余りにも悲惨であると、当県の人権啓発相談委員も警鐘を鳴らしています。

今、ここで忘れてはならないことは、私たち一人一人が、
○単なる支援者（第三者）として「傍観者となつてはならない」。

○当事者として「忍従しない」。

そして、私自身も当事者として、支援する者として、原発問題を単に天災だから、お互い様だからと「忍従」に

終わらせること無く、この地震、津波、原発で得た教訓を活かし、正しい智慧（情報）、経験（行動）のもと地球全体（インターナショナル）人類の共有課題として、真摯にこの問題を受け止め、唯一の核兵器被爆国であり、今回の原発被曝地である立場から原子力エネルギーのあり方を考え、No more Gempatsu!!を訴えて行きたいと思っております。

Never give up!!

Don't forget Fukushima & Tohoku Japan

更なる、みなさまのご支援ご協力をお願い申し上げます。



津波に流された鐘楼堂跡と境内地（津龍院様）



津波で押し倒された巨大「やまと鯨缶」看板（塩釜工場地帯にて）

東日本大震災現地慰問

福島の苦悩を目の前にして

S Z I 事務局 **佐藤慧真** (新潟県興源寺徒弟)



ぽーんと前へ飛び出した
ご開山様像を前に説明を下さる
善通寺様(西白河市)

びが入って床は粉が吹いたように真っ白になっていました。ご本尊様以外のあらゆるものが倒れたのだそうですが、ご開山様の像が社ごとぼーんと数メートル前方に飛ばされたままになっており、どれほど強い揺れであったのかがうかがえました。町中が被災している状態で修理もままならず、まだ大きな地震があるのではないかと予断を許さない状況に、住職は肩を落としておられました。

5月18日、19日に行
われました福島県内
被災寺院慰問につい
て報告させていただきます。

慰問した各寺院ごと
に本堂、庫裏、屋根
などが壊れ、墓石
や仏像などが倒壊し
ている様子を目の当
たりにしました。特に地
震の被害が著しかった
のは、内陸部の西白
河・須賀川で、善通
寺様の場合、本堂に
入ってみるといくら
傾きがあり、白壁にひ

また、相馬市から海沿いに福島県の最北に向かうと、ＪＲ新地駅付近の町がそっくり流されてしまっていました。瓦礫の中にぼつんと残されていた美容室のマネキンの首が、海の方を見ていました。物言わぬマネキンの首。空は青く、日差しは温かく、皮肉なほど爽やかな５月。恐怖と悲嘆にまみれた地には、瓦礫をまとめる乾いたブルドーザーの音があちこちから聴こえるばかり。混乱する私の前に、全てが現実としてそこにありました。

ご承知の通り、福島県には地震・津波に加えて原発の問題が重くのしかかって来ています。これに風評被害を加えた、四重の苦悩が福島慰問の実態でした。見えない恐怖と混乱、先の見えない混沌。原発問題が未収束のままきっちりと復興に向かうスタートを切ることが出来ない状態の中で、福島県は「がんばっぺ福島」と旗を揚げながら、この四重苦と必死で戦っているのです。

今回は福島県のみの慰問となりましたが、広大な東北を震災はべろりと飲み込んだのですから、SZIとしての支援にしても、本当にどこから手をつけていいのだろうかと思われました。地元の新潟では、手作りキャンドルの販売により被災地の学校に楽器を贈るプロジェクトや、大栄寺専門僧堂の万灯供養会でキャンドルナイトを併催しユネスコの東日本大震災こども支援募金に売上を寄附するなどの活動に携わってまいりましたが、SZIでも何か出来ないかと考えております。

慰問報告

S Z I 事務局 うち やま はる こ 内 山 温 子 (静岡県随縁寺寺族)

2日間とも福島県のみ、かなり時間経過してからおたずねしたこともあってか、振り返ってみると、感情的なことよりも具体的にどこがどのように被害をうけたか細かなところまで把握し、既に動き出している方も多かったのに気がつきます。ロードマップ（何々の修復におよそ何年くらい）を予想



細川会長、慧真さん

し莫大な損失額だとわかって、自分たちは結果助かって風雨もふせているのだから、なるべくコストダウンして、できる範囲から修理していこうというお話もありました。わりとすぐに片付けおわたところで

は、近隣の人もすぐに見られるよう当日の状況を本堂に公開していましたし、後の人のことを考えて記録することによって、被害状況を比較するのではなく、大変な思いを共有できると改めて感じ

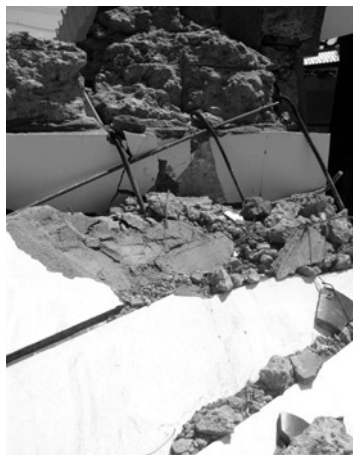


被災地：本堂

た次第です。普通は1人で動かさないような重たい仏具や調度品が数メートルも移動するのに、御本尊の仏様は、どの御寺院でもほとんど動じずという点も印象的でした。

一方、丁寧^①に状況を把握しコミュニケーションをとるかぎ

り、一人ひとりの被害の違いに配慮されている場合もありますが、同じ被災地でも、たまたま居た場所や住んでいた場所が理由で支援や対応への明暗がわかれてしまうのをよくみました（原発事故による避難区域も、他の国の基準では自分の寺も入ってるかもしれない？子どもだけでも避難？という方など）。境遇や得られる情報に格差があるなかで正しい



鉄筋を入れた塀も崩れる

方法を選ぶことも難しいと思いますが、墓地も仏像も基本的には耐震前提ではないし、いくら時々UNESCOで日本の寺院が世界文化遺産として認定されても、一つ一つの寺に対する補償・保障はありません。国内外で物資があまっていたり、義捐金があまく配分されないというのも、被災地全般にいえることかもしれません。

しかし、全国7万寺を超す寺院業界であれば、格差を助長するようなことをせず助け合って、寺院での防災訓練もおこならず、日頃から死と隣あわせのお仕事だからこそ、ひとのいのちを守りきる場所の一つ



「アクアマリンふくしま」近辺
(当時は生き物たちも隣県に避難したようです。7/15営業再開)

であってほしいと切に願うばかりです。5か月を経ても、たびたび各地で地震がおきていますので、会員の皆さままで被災されていない御寺院様におかれましては、自分や家族のお寺、菩提寺が地震ですぐにくずれてしまうような、ずさんな建築でないか？防火ブザーは本堂や庫裏に、ちゃんと設置されているか？等々よくチェックされ、ここSZIはもちろん、確実に継続的に支援が届くルートをいくつか持っていていただくことをおすすめします。チャリティ・イベントに参加したり、観光として訪れることであっても十分サポートとして認められると思います。

一毛の災害ボランティア

S Z I 事務局 おお た けん こう
太 田 賢 孝 (東京都大龍寺副住職)

この震災で亡くなられた方に哀悼の意を表し、被災された方にお見舞い申し上げます。

阪神淡路大震災から16年。この度の東日本大震災でも、多くの方が被災地の復興支援に力を寄せています。何週間も活動を続けておられる方、何度も足を運ばれている方の中で、僅か1度の経験を記すことの恥ずかしさを覚えつつ、拙文を寄させていただきます。

私は4月24日(日)から29日(金)まで、石巻で炊き出しを計画していた東京都宗務所・青年会の呼びかけで、2カ所の被災地へ行きました。

陸前高田には、師寮寺と縁のあるUさんご夫妻が住んでおられました。今回の震災で奥さまは助かりましたが、Uさんは津波にさらわれ約1ヶ月後に亡き姿で見つかり、市内のお寺に埋葬されました。今回、石巻の日程より2日早く東京を出て、Uさんの弔問と、日用品を中心とした支援物資を届けました。

またちょうどその頃、「ふんばろう東日本支援プロジェクト」というネットを利用した被災地の支援活動が立ち上がっていました。このサイトは、被災地の人に必要な物を必要な数量をリストアップしてもらい、それを見た人が出来る範囲内で直接支援をする、という行政を介さない仕組みを構築したさきがけです。このサイトに、陸前高田にある保育園の先生(24人)から、室内用上履きがないとの情報がありました。各先生の足のサイズに合う上履き(ナースシューズ)をアメ横で買い揃え、折角なので現地へ直接持参しました。後にこの活動は報道などで取り上げられるようになり、支援の輪は広がっています。

石巻の香積寺さまにて炊き出し隊と集合し、支援衣類の分別、石巻市立北上中学校にて濃い味のお蕎麦・柑橘類の炊き出しを行いました。炊き出しの後、津波に全て流されてしまった曹洞宗のお寺を訪問し、住職さんと共に瓦礫の撤去と、集落に散乱していた仏像・仏具・お位牌などを拾い集めました。また、炊き出しの翌日4月28日には「北上 上ノ山墓地」へ行き、現地の住職さんと共に、四十九日法要を営みました。ここは震災後に造成された土葬墓地で、お参りに来ていた約50名の遺族にも参列をいただきました。

5月以降、施食会の随喜、お盆などで身動きが取れなくなりましたが、復興までの道のりは長そうです。余りに広範囲であることから、国任せ、他人任せの支援は後手後手になりがちであることが指摘されています。これからも、宗侶の方、一般の方がなさっている支援活動に教わりながら、自分が動く支援活動を続けていきたいと思っています。



特集 両大本山ワークショップ講演録

總持寺ワークショップ報告 講演抄録「アメリカ仏教」

武蔵野大学仏教文化研究所長 ケネス田中^{たなか}（武蔵野大学教授）

みなさまこんにちは。「アメリカ仏教」という講演を理解し易くするために、まず少し自己紹介させていただきます。

私は今日の演題と同じ『アメリカ仏教』という本を、1年前に武蔵野大学の大学出版から出版致しました。今まで私は本を全部英語で書いていましたので、この本は私としては初めて日本語で書いた本です。大変苦労しました。しかし、アメリカ仏教全体を見る書物はこの本が初めてだと思います。私は禅宗の専門家ではありませんが、本日の講演ではこの本に沿って、アメリカで仏教が伸びているという現状を話し、そしてその特徴と理由を話したいと思います。

現在私は、武蔵野大学で教鞭をとっております。そこでは主に、学部の子生達に対し一般仏教を分かりやすく教えています。仏教の四法印などを、現代に沿ったかたちで教え、仏教は古くさいものではないということを強調しつつ仏教の根幹を伝えたいと思っています。結構苦労しますが、有意義でもあります。

武蔵野大学には12年ほど前に来ましたが、その前は、アメリカのカリフォルニア・バークレーにあるインスティテュート・ブッディスト・スタディという浄土真宗本願寺派が1950年代に作り、1960年後半に仏教大学大学院になったところで教えていました。

ところで、私は日本で生まれ、10才でアメリカに渡った中途半端な日系2世ですので、2世半と自称しています。ですから、私の曾孫はご飯（5世半）になります…。こういうつまらないダジャレを時々言わせてもらっています。

重要なことは、私は10才からずっとアメリカで育ち、アメリカで教育を受けました。日本語もアメリカの大学で勉強しました。そんな中、中学校の頃に仏教に出会いました。仏教には英語で出会ったことになります。その後日本に留学し、日本語で仏教を学んだりしましたが、基本的に仏教には英語で親しみました。



ケネス田中先生

私は学問としての仏教だけでなく、宗教としての仏教にも興味がありました。ですからアメリカの大学院で教鞭をとりながら、地域の法話会とか、日曜日にはお寺でも話をしたりしていました。そこで一般の檀家さんとも触れ合う機会もありました。また日本に来た1998年直前の3年間はお寺の住職もしておりました。浄土真宗本願寺派のお寺ですが、色々貴重な体験をさせていただきました。

その際、アメリカにおいて仏教がどうあるべきかということ、色々考えることができました。ひとつ言えることは、アメリカでは仏教に興味を持っている人がかなり多くなっているということです。なぜ仏教に興味を持つかというと、メディテーション（瞑想）が一番の理由だと思えます。ですから、禅宗の方達には非常に有利です。浄土真宗のように「行」がはっきりしていない宗派は非常に苦戦するところがあります。曹洞宗の僧侶の方達は浄土真宗の開教師より全然（禅禅）良い立場です。またヘタなシャレを言ってしまいました…。

今日は詳しいことを話すよりも、アメリカ仏教全体を網羅して、現状と特徴と原因という3つの項目を話していきたいと思います。

現在、アメリカで仏教徒として生きることは、以前に比べて非常に恵まれた立場だということができます。1960年代の初めくらい、私がまだ中学校の時です。「あなたの宗教は何ですか」と尋ねられた時、私は本当は「仏教徒です」と答えたかったのに、小さな声で「私は町の仏教教会（ブッディストチャーチ）に行きます」と答えたことを鮮明に覚えています。

仏教徒であると言わずに、仏教教会（チャーチ）に行くと言いました。昔はキリスト教的に教会と言いました。今は寺院（テンプル）と言います。1960年代後半に、チャーチからテンプルに変わりました。それまでは、仏教がアメリカの宗教であるということを伝えなかったため、チャー



侍局拝問

チとっていました。

私は仏教徒であることに引け目を感じていました。なぜなら、当時は仏教というものが一般のアメリカ社会に対してはほとんど知られていませんでした。何かアジアのカルトというようなものにしか捕えてもらえません。しかし現在、状況はがらっと変わってしまいました。仏教徒であることを誇りに思えるような面もあります。私には3人子どもがいますが、彼らは仏教徒であることに全然引け目を感じておりません。1960年代から50年ほどの間に、仏教は15倍ほど伸びています。今現在アメリカの仏教徒は、人口の1%といわれています。アメリカの人口は3億程度ですから、1%というと約300万人です。

そしてこの300万人の他に、200万人ほどのナイトスタンド・ブッディストがいると思われます。ナイトスタンドは寝室のスタンドのことです。ナイトスタンド・ブッディストというのは、仏教徒であるとは宣言していないが、非常に仏教のことをよく知っていて、仏教に関する本もよく読むし、家には仏像を置いているかもしれない、時々大学の仏教の講義を聞きに行ったりしている人達のことです。彼らは日本の一般的仏教徒より、仏教のことをよく知っています。インテリ層に多いタイプですが、自分を仏教徒と決めつけられるのは嫌がります。彼らは寝る前に寝室で仏教の本を読むことが多く、寝るときはナイトスタンドにその本を置き、朝起きて前日に読んだ本のことを想いながら30～40分の坐禅をする。このようなナイトスタンド・ブッディストが200万ほどいるといわれています。

この他、仏教に「強い影響を受けた」という人々が、2500万ほどいるといわれます。本を読んだりとか、仏教徒の人から影響を受けたとか、ダライラマの話を聞いて感銘を受けたとかいった人達です。この数は東京の人口の倍に当たります。つまり、3億の人口のうち、3000万は仏教人口ということができると思います。仏教徒は1%ですが、約1割は仏教のことをよく知っていて親しみを感じているのです。現在のアメリカはこのような状況です。日本は仏教国ですので、日本に較べれば大したことはないとおっしゃるかもしれませんが、私が子どもの頃と較べるとかなり違います。

一方でキリスト教はというと、減っています。1960年代は91%がキリスト教徒でしたが、最近の統計によると、78%ということです。ですから、キリスト教以外の宗教が増えています。仏教も増えていますが、一番多く増えているのは、「無宗教」です。宗教に関わっていない人達が、今16%となっています。

アメリカの宗教をどのように見たらよいかということに対しては、色々な説がありますが、一般的には2極化しています。アメリカには、ご存じのように非常に宗教に興味を持つ人が多いです。一ヶ月に1回以上教会などの宗教施設に行くという人は、55%です。半分以上の人が一ヶ月に1回は教会といったところに行っています。そして3割の人は1週間に1回は行っています。宗教に関わっていく民族といえます。これは日本の状況と較べるとかなり違います。

その反面、特に若い人達の間で、無宗教の人達も増えて16%になっています。アメリカは昔、ユダヤキリスト教文化に属するといわれていましたが、現在はかなり多様化が進んでいます。アメリカという国は人種も多様化しています。カリフォルニア州では、白人の人口が50%を切っています。黒人・ヒスパニック系・アジア系の人口の方が、白人より多くなっています。そして人種だけでなく、宗教も多様化しています。

78%位がキリスト教、2%がユダヤ教です。キリスト教はユダヤ教から発生した宗教ですから、互いに深い関係を持っています。アメリカの社会はよくユダヤキリスト教文明といわれますが、現在は合計80%です。20%はこのグループに入りませんから、だんだんとアメリカも変わりつつあると思います。今、仏教は1%です。イスラム教は伸びているといわれますが、実際は仏教より少し少ない程度です。イスラム教のイメージは仏教と異なり、あまり良くないものがあります。イスラム教に改宗する人達は、アメリカ社会に不満を持っている人が多いのです。一方、仏教に改宗する人達は、インテリ層で中流階級以上の人達が多いです。私の推測では、2050年までには仏教徒数がユダヤ教徒数を追いつく可能性が高いと思います。そうすると、キリスト教との差は大きいですが、数の上ではアメリカ第2位の宗教になります。

また、リチャード・ギアとかNBAのフィル・ジャクソン監督といった有名人が仏教徒になり、仏教の影響力も高まっています。バスケットのジャクソン監督は「ZENコーチ」と呼ばれていました。ZENというのはアメリカではブランドネームです。曹洞宗の国際布教には得になっていると思います。浄土真宗はSINブッディズムといいますが、SINといってもあまりピンときません。ブランドにはなっていません。欧米ではZENというのは本当に有力な名称です。

次に、アメリカでどんな仏教が活躍しているかを見てみます。基本的にはすべての主な仏教宗派はアメリカに渡っています。日本ではチベット仏教徒やタイ仏教徒と出会うチャンスはほとんどないと思います。しかしアメリカでは同じ町に、タイ仏教徒、カンボジア仏教徒、チベット仏教徒、中国仏教徒などが互いに共存しています。私自身、アメリカで住職をしたおかげで、他の宗派の人達と付き合うことができました。得にベトナム仏教徒からは、自分の宗派からは感じられない熱意を感じました。

私は、アメリカ仏教を4つに分けることにしています。第1グループは19世紀からアメリカに渡ったアジア系仏教（中国、日本）、第2グループは1960年代半ばから多数渡米したアジア新移民の仏教（ベトナム、台湾、韓国）です。第1グループのお寺では英語が中心になっていますが、第2グループでは現在はまだ母国語を話しているところが多いです。

第3・第4は改宗者のグループです。第3グループは瞑想中心の禅とチベットと南方仏教、第4グループは創価学



会インターナショナルです。

また歴史的に見た場合、戦前の仏教は2種類に分類することができるのではないのでしょうか。ひとつ目はヨーロッパ系の人達によるインテリ仏教。19世紀後半にはインテリ層がかなり仏教に興味を示していました。特にボストン、サンフランシスコ、ロサンゼルスなどの進歩的な地域では、仏教に興味を持つ人が多くいました。ポール・ケーラス（Paul Carus）などは、仏教と科学が矛盾しないことに魅力を感じました。キリスト教には創造論などがあって、科学と矛盾する面があります。彼は仏教を科学的宗教として捕らえました。このような考え方は現在も続いて、仏教の魅力のひとつになっています。しかしこのような仏教は思想的には魅力的でしたが、行に欠けていました。したがって、20世紀になると少し下火になります。

ふたつ目は日系仏教です。日系仏教は栄えました。戦前、日系人は色々な面で差別されて、一般社会に入り込めなかったのが、日系仏教は日系社会のコミュニティーとして繁栄しました。そして戦後になると、ヒッピーの時代に白人の間で禅がブームにもなりました。

次に、アメリカ仏教の特徴ですが、まず平等化ということがあげられます。女性の仏教指導者が多くいます。また、仏教は差別をしないという印象が強いため同性愛者にも受け入れられています。

2番目はメディテーション（瞑想）です。メディテーションはキリスト教にないものです。ユダヤ教やキリスト教には、誰もが簡単に入っていける行がありません。アメリカの若者は宗教よりスピリチュアル（霊性）を好みます。スピリチュアルとは、宗派や組織から解放されて「個人が求めるものに合った深遠な一人ひとりの聖なる体験を重視すること」です。これは日本の若者にも共通しています。坐禅といったメディテーションは、このようなニーズにぴたり答えます。ですからアメリカでは浄土真宗のお寺でも、念仏メディテーションという行を行ったりしました。

3番目はエンゲイジド・ブディズム（社会参加型仏教）。西欧の正義の伝統と仏教の菩薩精神が絡み合って、アメリカ仏教は日本より社会への関わりが強いと思います。そして4番目は超宗派性です。ある宗派の指導者が他の宗派で話をしたりします。複数の宗派に所属することも珍しくありません。5番目の特徴は個人化宗教ということ

です。人々は自分個人の宗教性を強調します。団体に属するのではなく、自分個人として何か宗教的なものを得たいという気持ちが強いです。そして6番目は科学と矛盾しないということです。アインシュタインも「仏教こそが新しい宗教の象徴である」と言いました。

7番目は心理学と仏教。アメリカでは仏教への改宗者の3割は何らかのかたちで心理学に関わっています。心理学というものは多くの窓口となっています。私も数年前に「日本仏教心理学会」というものを立ち上げました。興味ある方はホームページを御覧下さい。一般の人が理解しやすい言葉で仏教を説明するには、心理学は役に立つと思います。8番目は「今」の重視です。諸行無常というと、伝統的には「無常なんだから執着するな」というように理解されたりもします。しかしアメリカでは、「諸行無常だから今をたっぷり体験しましょう」と受け取ります。9番目は仏教ユーモアです。アメリカ人はユーモアを好みますので、多くの仏教ユーモアや仏教ジョークが創造されています。

繰り返しになるかもしれませんが、最後にアメリカで仏教が伸びた原因について触れておきます。まずスピリチュアルというニーズ。現代人は、宗教性を持つてはいるが、今までのような組織化した宗教、対立した宗派、難しい教義、このような宗教には関わっていけないと感じる人が多くなっています。何に興味があるかといえば、「自分が聖なる体験をしたい」ということです。つまりメディテーション。坐禅のように行に関わっているものに惹かれていく。そして社会参加型仏教のように、社会問題を人間の能力と努力で改善していけるという信念。仏教は誰でも入っていける、入りやすい宗教だということ。また、「今」を強調し、科学と矛盾しない。ドラマやティク・ナット・ハンが説く現代仏教には比較的差別がなく、同性愛者や女性に受け入れられる。仏教は現代にマッチした考え方を説いているといつて良いと思います。

そしてアメリカ自由近代主義が、「アメリカ的な仏教」を形成していく原動力になっています。自由近代主義とは自由主義と（宗教）近代主義を合成した言葉です。自由主義には「人間が進歩し、常に向上し理想を達成できる」という強い信念があり、（宗教）近代主義とは「科学の影響によって人間の理性や能力が重視され、超越した神よりも、身近に働きかける神を求める」というものです。

最後になりますが、宗教というと通常お寺や教会の会員になって色々な仕事及要求されます。しかし、自分の興味があることだけに関わりたいという気持ちが現代人には強いです。ある意味自己中心的といえるかもしれません。例えば「メディテーションだけをやりたい、他は興味ない」といったものです。このような組織も求められています。禅センターでは、「檀家にならなくても、自分が興味ある瞑想だけに関わって、それなりの寄付をする。」ということができます。このように宗教組織の考え方が変わりつつあります。このような風潮にも仏教は適合しているといえます。

塔婆供養で植林支援報告と絵本刊行のおしらせ

SOTO 禅インターナショナルとNPO法人GNCで行っている協働事業、「塔婆供養で植林支援」は、皆様より多大なるご賛同をいただき、苗木の本数は9万本を超えまもなく10万本になろうとしています。

2010年に寄託いただきました植林支援は、2011年植林分2万5千本の苗木となって、モンゴルに植林されました。今年のモンゴルは、例年より積雪が多かったため、植林時期がずれ込むなど心配されましたが、無事植林が完了しております。報告書は後ほど支援をいただいた方にお届けする予定です。

また、このたび、GNCスタッフの矢野さん原作、GNCモンゴルのスタッフで翻訳され製作されたミニ絵本が発行されることとなりました。

タイトルは『アカマツの赤ちゃんの夢』

モンゴル、日本の子どもたちへの思いが込められた絵本です。



『アカマツの赤ちゃんの夢』 A5横版 カラー 16ページ 原作 矢野明子 発行GNC

絵本のあとがきには

未来に生きるみなさんへ

この物語のようにどうぞ赤ちゃんの木たちに「頑張れ！」って願いを込めて休みなく植え続けていってほしいものです。

決してあきらめることなく・・・そうすれば、いつの日かきっとみんなが描き続けた緑豊かな森となって蘇るはずだから、

そして、豊かな水を蓄えてくれるはずだから・・・

と結ばれています。

モンゴル北部に広がっていたかつての豊かな森が再び戻ることを願い、モンゴルや日本の子どもたちに届けられます。

この絵本は自費出版であり、一般販売されません。9月に発刊予定、実費で600円ほどになるそうです。希望される方がいらっしゃいましたら、SOTO 禅インターナショナル事務局まで連絡先、希望部数を明記の上、ハガキかFAX (045-843-8864) にてお知らせください。

(文責 SOTO 禅インターナショナル 事務局長 亀野哲也)



感謝状 Талархал

SOTO禅インターナショナル 殿

モンゴル国の自然環境の保全と復元に多大な貢献をなされた貴社に対し、本感謝状を添えて感謝の意を表します。貴社のご協力によって植えられた苗木が後日美しい森林に生長し、モンゴル国の森林資源の重要な一部になり、モンゴル国の発展と地球環境の改善に繋がるものと確信しています。貴社のますますのご繁栄とご成長を祈り申し上げます。

Монгол орны байгаль орчныг сэргээх буянтай үйлс болсон ойн нөхөн сэргээлтийн арга хэмжээнд танай байгууллагын оруулсан үнэтэй хувь нэмрийг өндрөөр үнэлж энэхүү талархалын бичгийг өргөн барьж байна. Та бүхний сэтгэл гаргаж суулгасан тарьц хожмын нэгэн өдөр Монгол орны ойн сангийн чухал нэгэн хэсэг, сайхан ой болон ургана гэдэгт бид гүнээ итгэж байна. Та бүхний энэ сайхан үйлст амжилт хүсч, цаашид улам өргөжин дэвжихийн өлзийтэй сайхан ерөөл дэвшүүлье.

森林・動物センター
モンゴル国、セレンゲ県、
Сэлэнгэ аймгийн “Ой Ан” төв

B. Jamsran
センター長
Б.Жамсран
Төвийн Захирал

モンゴル国、ウランバートル市、
平成23年6月

GNC Mongolia
Жи Эн Си Монгол

B. Nasanbileg
代表
Б.Насанбилэг
Тэргүүн

Монгол улс, Улаанбаатар хот
2011 оны 6 сар

SZ Iの「塔婆供養で植林支援」は宗派によらず参加可能です。

苗木本数分×30円の植林支援金をSZ I事務局へ振込んでいただくことにより、事務局よりポスター、植樹証明書、苗木本数分の通し番号付植林支援シールをお届けします。

各寺院様にはこのシールを卒塔婆に貼付し供養の施主に渡すなど活用くださればと思います。

郵便振込口座 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

通信欄に「塔婆供養で植林支援」と明記ください。

詳細はパンフレットをご覧くださいか、SZ I事務局までお問い合わせください。

★ キャンドルナイト in 大船観音 2011 summer 開催報告 ★



6月19日(日)、恒例のキャンドルナイト in 大船観音 2011 summer を開催しました。全国共通の環境キャンペーンへの参加表明であると同時に、大船の夏至キャンドルナイトでは毎夏、境内にともる"原爆の火"から採火する儀式の際「神奈川県原爆被災者の会」(語り部)の方もお招きしています。ここでのお客様からのサポートは、メッセージキャンドル(有料)を通して、ア

ジア各地への支援を目的とした「ゆめ観音アジアフェスティバル」、万灯供養法要と連携しています。今回は、SZIを含め実行委員会メンバーも被災してしまったなか、仙台出身の学生スタッフも手伝ってくれました！

時間の都合で早く来場された方をふくめ入場者は100名を超え、多くの方がキャンドルに復興への願いをこめました。



第13回 ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船 Yume Kannon Asia Festival in Ofuna つながる ひろがる アジアのねがい



2011年9月10日(土) 11:00～開催

Official site <http://soto-zen.net/yume>

〔主催〕大船観音寺・SOTO禅インターナショナル
〔協力〕神奈川県第2宗務所第5教区・即心会ほか有志

SZIテナントでも復興支援や植林のご協力をお願いしています。

舞台の時刻表、出展者一覧は別紙ポスターをご覧ください。本堂や玄関に貼っていただければ幸いです。

CONTENTS

- ▶ 巻頭 “インターナショナル” とは何か? …… 曹洞宗ヨーロッパ国際布教総監 フォルザーニ慈相 1
- ▶ 東日本大震災メッセージ
「東日本大震災」による被災地の苦悩－地震・津波・福島原発放射能汚染－ …… SZI会長 細川 正善 2
- ▶ 東日本大震災現地慰問 …… 4
- ▶ 特集 両大本山ワークショップ講演録
講演抄録「アメリカ仏教」 …… 武蔵野大学仏教文化研究所長 ケネス田中 6
- ▶ 塔婆供養で植林支援報告と絵本刊行のおしらせ …… 9
- ▶ SZI express 会費納入者・賛助金納入者名簿・動静報告・編集後記 …… 11
- ▶ キャンドルナイト in 大船観音 2011 summer 開催報告・第13回ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船のおしらせ …… 12